

ジムグリ



「ヘビがいた。小さい子供のヘビだ。弱って来た一つとなっている、見たことないヘビだ」と少し遅れて来た湯澤さんがいうのです。おっとりカメラでついて行きました。いました。私にしても初めて見るヘビなので、ジムグリだと判定しました。他のヘビは見たことがあるので、これまで見ていないヘビはジムグリしかないからです。ゲットした写真をご覧ください。美しい模様でした。2014年6月30日9時37分と記録されました。場所は澄川森林の基地に下る坂道の上でした。撮影後湯澤さんが火ばさみにはさんで皆のいるところに持って行きましたので、参加者全員が認知するところとなりました。

帰宅してネットで調べました。日本固有種だとかで、分布は南は種子島・屋久島、北は国後島までの間のほぼ日本全土で、大き目の離島も含むようです。無毒で温かなようでシマヘビに見つかりと吞まれてしまうでしょうから数が少ないのでしょう。ネズミの巣にいる子ネズミが好物のようなので、ネズミ駆除に大きく貢献しているにちがいありません。暑さに弱いとかで、この日の暑さでヘビの熱射病にかかっていたと思われる。酷暑期間は休眠するとのことでした。

ネット画像で検索しますと出るわ出るわ、模様ちがい、色ちがいのジムグリの画像がずらり、ずらりと出てきました。成熟するにつれて模様は消える傾向にあるようです。色は赤味がかかった茶色か



ら青味まで、別種かと思わせられる変化ぶりなのです。

この日の作業は主に薪割りと看板づくりでした。割った薪を積み上げた方がいいが、バランスが悪くで崩落。その防止用に支え杭を用いるについて、矢澤さんが、冬の作業でわざわざ皮むきまでして確保していたイヌエンジュの材料が杭として使われてしまったと嘆く結果となりました。